

朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

児童数 1069名

令和7年1月8日号



脱皮の巳年

校長 田邊 雅也

ヘビは再生・復活・浄化の象徴

令和7年は十二支の「巳（ヘビ）」年です。ヘビは、脱皮して成長することから「再生」や「復活」の象徴とされ、縁起の良い生き物として親しまれています。仏教の中では、ヘビが脱皮を繰り返す姿から、新生・成長・変化の象徴とされています。幸運、健康、金運、財運を呼び込み、環境のよりよい変化を招くそうです。何度も脱皮するヘビには「浄化」というスピリチュアルな意味があります。また、今年は、60年に一度巡ってくる、乙巳（きのとみ）の年です。これまでの努力や準備が、実を結びはじめ、勢いを増し、幸運に導かれる年となる、と言われています。日ごろから努力や準備をしていないと、幸運はやってこない、ということなのでしょう。

成長のために脱皮

あらためて、「脱皮」について調べてみました。ヘビは、脱皮をしないと、古い皮膚が成長を妨げ、病気やけがなどを引き起こすこともあり、成長するために脱皮をしています。爬虫類、昆虫類、甲殻類は、固い表皮を持っているため、多くは、脱皮なしでは成長できません。ヒトなどの哺乳類の体には、内部に硬い骨があり、表面はやわらかい皮膚で覆われているため、脱皮せずに成長できます。しかし、爬虫類、甲殻類、昆虫類はその逆です。例えば、ダンゴムシは、成長するために、硬い殻をどうにかしないといけません。内側にひと回り大きい柔らかい殻を作って、古い殻は脱ぎ捨て、時には、栄養として、その殻を食べてしまいます。

ニーチェの「脱皮できないヘビは滅びる」

爬虫類や昆虫類が脱皮するには、大変なエネルギーが必要です。外敵に狙われる危険もあり、成長するのも、命がけの大仕事です。残念ですが、脱皮に失敗することも、珍しくはありません。そんな脱皮の様子を、人の生き方に見立てた、ドイツの哲学者、フリードリヒ・ニーチェ（1844-1900）は、「脱皮できないヘビは滅びる」という言葉を残しています。過去の成功体験から、脱皮できない人や組織は、取り残されてしまう、という意味です。「向上心を失うな」、「常に変化をしろ」、「古い自分にしがみつくな」、「苦勞を伴うけれども、これまでの自分から脱皮しろ」、そして「新しい自分に生まれ変わろう」、さらに、「多くの人を幸せにしよう」、という強い思いが秘められていると感じます。この言葉を大切にしている人も多く、イノベーションを求める企業・組織が教訓としていることもあるようです。

箱根駅伝の「給水おじさん」

お正月恒例、第101回箱根駅伝が開催されました。突然、選手と伴走した65歳の白髪紳士、「給水おじさん」に釘付けになりました。東京大学の八田 秀雄 教授です。乳酸代謝、運動の疲労を研究し、運動生理学の権威です。院生の古川 大晃 選手に伴走し、給水している様子がテレビに映し出されました。院生の古川選手は、「人と走ると楽なのではないか」、という問いから、「追尾走」をテーマに研究をしていました。研究と走りを両立し、自分自身を進化させながら、箱根駅伝の舞台を目指してきました。本人の努力はもちろん、多くの大学教授や研究生と関わり合い、支え合いながら、箱根ランナーへの進化、という「脱皮」を繰り返してきたのだと感じました。教授が給水を終え、拳を挙げ、大声で選手を見送る姿は、教授の追尾が選手にエネルギーを与え、逆に選手の走りが教授にエネルギーを与え、共に「脱皮」しようとしているような、素晴らしい師弟関係にも映りました。

努力や準備が実を結ぶ教育に

もちろん、人は殻がないので「脱皮」をしません、自分の心には、経験、強さ、自信など、「殻」があり、武器であることには間違いありません。しかし、その「殻」は、成長を妨げる弱点にもなります。得意なこと、好きなことばかりで、「殻」の中に閉じこもることは、コンフォートゾーン（快適な空間）で心地いいですが、実は狭い世界かもしれません。得意なところも、不得意なところも自覚し、「できた、できなかった」、「新しい見方や発見ができた」と、捉え直し、克服していくことが、獲得的なウェルビーイング（※）につながります。自分の「殻」は、自分でしか破れません。

巳年は、「新しい自分に生まれ変わる」、「幸せな未来をつかむ」という意味もあります。六小では、子供たちの「脱皮」を促し、努力や準備が実を結び、皆のウェルビーイングが実現できる教育を目指していきたいです。保護者・地域の皆様、今年も「社会総がかりの教育」の中で、子供たちの「脱皮」を支えていただきますようお願いいたします。

※ウェルビーイング（幸せ）…日本社会に根差したウェルビーイングは、自己肯定感、自己実現などの「獲得的要素」と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの「協調的要素」があります。日本の教育では、両者のバランスが求められています。（文部科学省より）